

TYPE OF INDUSTRY

情報通信研究機構

NICT 先端研究

(157)

自動運転技術の進展、ドライブレコーダーなどの車載機器の高機能化により、膨大なセンサー・映像・位置データを生成・保有する自動車・ロボットなどのモバイルエッジが活躍する大規模データ

モビリティ時代が到来しつつある。データモビリティ時代における、エッジとクラウドの役割はどうあるべきか。

一方で、近年インターネット経由で多様なIT資源をオンデマンドで利用できるクラウドサービスの普及により、クラウドサービス、そこから「集合知」を利用する企業の割合は2018年時点で約59%にも達する。エッジを持つ全データは、未来の大規模をクラウドに集約する

通信距離を特徴とするWi-SUN互換の無線通信技術を用いる車の両間を営業中のタクシーを走行中のドライバーに導入し、近隣を乗客発見情報を直メッセジ通知/ナビゲーション

エッジ連携 集合知でモビリティ誘導

総合テストベッド研究開発推進センター・中内 清秀

03年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。同年、独立行政法人通信総合研究所（現NICT）入所。以来、モビリティ制御技術、ネットワーク仮想化技術、クラウド・エッジ連携技術、IoT無線利活用技術の研究開発に従事。博士（工学）。



クラウドで構築した「集合知」に基づきモビリティを遠隔ナビゲーション

今後、タクシー基盤を使った実証実験や、自律移動型ロボット間の連携実証などで有用性を検証していく予定である。

（火曜日に掲載）

科学技術・大学